

OHREP 会員メッセージ_2015/07/20

1. 自然エネルギーに思うこと

地熱エネルギー有効利用を進めるのが安定性の意味でも利便性があるのではないかと(北海道で) 私たちは、原子力発電を再稼働しようとする動きには、現在設備の制御ができない限り、賛成する理由がない。社会構造の変換期には、いつの時代も既得損益を求める旧態依然な組織との間で闘ぎ合いが発生するものだ、反発も大いにある。それでも自然の摂理に反することなく自然循環のサイクルの中でワイズ・ユースの考え方を元として適用していくべきと考える。

2. エネルギー施策に思うこと

住空間における人的サポートの問題、ヒートショックで亡くなる方が 17,000 人/年(交通事故：4000 人/年)という実情(要介護者の増加)は、あまり知られていない。病院の医師たちも薬で解決しようとする一方的な考え方(悪い資本主義)で、人的サポートが不足している、省エネルギーでも人の健康に相応しい、環境構築が出来るのに経済を重視するがために見誤っている傾向にある。

3. エネルギーの将来への方向性に思うこと

エネルギーに限らず、社会構造が無駄使いを助長し、それに準じていかないと生活できない状況に置かれている、省エネルギー化は出来るのに行き過ぎた資本主義が過剰なエネルギー浪費を招いている、経済的に裕福な方々は新しい技術を購入するという形態で取り入れることが可能だが、余裕のない方々は、今の環境を維持し、我慢し、その利用改善や縮小していくことで精いっぱい努力をしようとしている状況である、全体社会として実現すべき事項というのは、経済性を求めるものではない、そういった見方を実現できないと世の中の改善に繋がることにはならないのではないかと? 将来への鍵は、地域ネットワーク化と ICT の有効利用に伴う自然との融合(ワイズ・ユース)、住環境の改善にある。エネルギーは、作る量を増やすのではなく、使用する量を減らすアプローチが望ましい。

4. エコ生活の知恵として思うこと

土に帰るゴミ、ゴルフのティーは、木の素材を使っているよ(^-^v)無くなっても土になるから。エコ生活は、基本ですよね、エネルギーを使い過ぎている、または使わされている社会環境ですが、循環する素材などで繰り返し利用することが本来の姿であると考えます。自然に存在するもので繰り返し使用している提案を今後もよろしくお願いします。エコ生活とは、昔の生活にも戻るということではなく、人と人のつながりがその温もりを産み、共に生産に従事することで、地域に在住し、地域で自立する環境を準備することで、地域活性化をもたらすことに繋げていくことであると考えている。地域自立できないと、与えられた環境で生活する以外になくなり、果たして省エネルギーなのだろうか?個人は何をすればいいのだろうか?とかいう疑問が生じる結果となっている。自立とは、人間生活の基盤である食、エネルギー、人的サポート(介護)をその生活地域で実現していくことであると考えます。

5. その他、関連する事項

再生可能エネルギーを進めていくうえで、事業としてやっていると、結局は絵に描いた餅になってしまうが、真剣にやろうとすればするほどお金にはつながらなかったりします。補助金頼みの事業は「補助金貧乏」を生み、展開が自転車操業になりそうです。固定価格買取制度にしても、最初こそ起爆剤となりましたが、それは「儲け企業」を満足させたことになり、なんとも不愉快です。結局は自家消費していくのがベストではないかと考える次第です。今は熱利用に力を入れた方が良くはないかと考え、あちこちに種まきをしている状況です。